

大谷大学新聞

発行
大谷大学新聞社

東日本大震災義援金活動報告

～想いをつなぐ復興への願い～

今年度も本学では東日本大震災義援金を募集するために、学生会が募金活動を入学式で行なった。在学生及び本学関係者を対象に行い合計七万三四七〇円の募金が集まった。なお、これらの募金は昨年度とは違い京都新聞社会福祉事業団を通じて現地災害対策本部に送られる。

昨年度まで本学は日本赤十字社を通じて被災地に義援金を送る形であったが、今年度から京都新聞社会福祉事業団を通じて送られることとなった。今回の変更について、本学学生会長で



ある山本翔さん(文・二)に伺ったところ、「昨年度の募金活動で集められた義援金が被災地に行くまでの過程が分りにくいと指摘があった。今年度は京都新聞社会福祉事業団を通して、多くの人に本学学生会の社会貢献を知ってもらいたい」との返答を得た。四月九日、京都市上京区の京都新聞社の京都新聞社会福祉事業団事務所に本学学生会を代表して山本さんが今回の募金活動で集まった義援金を、京都新聞社会福祉事業団の高岡俊裕さんに手渡した(写真…義援金を

手渡す様子)その際、高岡さんは「お預かりした義援金は被災地にお届けします。」との返事をいただいた。本学学生会では昨年度から、卒業式や入学式等で募金活動を行ない、今回の募金活動で東北三県へ送った義援金の総額は七二万三三七〇円にも上り、今後とも募金活動を継続していく。本社としても、今後とも学生会の一員として募金活動や社会貢献活動を行なうとともに、本学に対しても東北三県から来た学友に対しての積極的な支援を求めている。なお、今回義援金活動で協力いただいた公益財団法人京都新聞社会福祉事業団は、被災地域への義援金受付だけでなく、家庭の事情で学業の継続が困難な学生や昨年の震災で被害を受けた、学業の継続が困難となっている学生を対象に奨学金を給付する『愛の奨学金』を行なっている。本紙にも紹介記事が掲載されている。ぜひ一読していただければ、幸いである。

京都新聞社会福祉事業団より

愛の奨学金のご案内

家庭の事情で学業の継続が困難な若者が安心して勉強を続けられるようにと公益財団法人京都新聞社会福祉事業団では、2012年度京都新聞「愛の奨学金」の受給希望者の申請を受け付けている。愛の奨学金は、京都新聞紙面の「誕生日おめでとう」コーナーや交通遺児を含めた協賛寄付金などに寄せられた多くの方々の善意で給付を行っている。1965(昭和40)年の開始から、これまでに延べ約7000人の奨学生に贈っている。対象は、①京都府、滋賀

学内全面禁煙実施

～問われる喫煙マナー～



今年度も四月十六日から四月二十日に、大谷大学ではマナー向上キャンペーンが行われた。昨年度から学内全面禁煙に伴い、禁煙場所が限られたが、今回のマナー向上キャンペーンによって喫煙者のマナーが再

編集後記

多くの犠牲者が出た東日本大震災から丸一年が経過した。今回、第二号で取り上げているように本学では、募金活動や被災地にボランティアなどの被災地支援を行なっている。

そんな中、震災報道は日に日に少なくなり、被災地の現状が分りにくくなってきた。実際に被災地を見た人間が本誌には存在しないので、今回は被災地(福島県双葉郡)から京都に出る本学・真宗学科に通っている吉田光信くん(文・二)に話を聞いた中での一言が、私の中で何度も何度も繰り返される。

「自分たちの目で見て、(被災地の現状を)感じて欲しい」今回改めて、自分たちに出来る事を考えさせられた。

最後に、記事投稿してくださった京都新聞社会福祉事業団・取材(撮影)協力してくれた方々に感謝し編集後記を締めくくりたい。



大谷大学新聞社

新入生
歓迎!

募集員

中央執行委員会

The center executive committee

Box棟 1階 北側

おん5く ofani, cec, renraku @ gmail. com

大谷大学混声合唱団

サマ-コンサート

*日時: 2012年 6月30日(土) 開場 18:00 / 開演 18:30

*場所: 呉竹文化センター 「舟波橋駅」西口前

*入場無料

こんにちは! 今回上記の通り演奏会を開催する運びとなりました。よろしければ、ご家族・ご友人をお誘い合わせの上、ご来場ください。皆様のお越しを固くお待ちしております!